

令和8年度京都府産一番茶の状況について

令和8年8月

公益社団法人 京都府茶業会議所
全農京都府本部茶業市場課

令和8年度京都府産一番茶の生産及び取引数量と単価について、状況を報告いたします。
昨年度から、茶価は全国的に高騰しており、今年度も昨年度を上回る取引価格となっています。抹茶原料の碾茶だけでなく、各茶種全般に価格が高騰しています。

生産現場では、碾茶生産への転換が進み、碾茶以外の各茶種では、生産量が減少していることから、取引価格への影響が大きくみられる状況となっています。

令和8年の宇治茶流通センターにおける(全農茶市場)での一番茶の取引状況及び動向は、以下のとおりです。

1. 京都府における茶生産状況について

(1) 生産形態について

令和8年度京都府産茶の生産・流通状況等に関する資料(京都府)によると、担い手の不足もあり、生産面積は年々減少しており、生産量も減少している。

なお、生産量を増加させるためには、茶は定植から収穫まで一定期間(5～6年)が、必要であり迅速な対応は困難である。

(2) 取引数量について

取引数量は、増産を期待されていた「宇治てん茶」(9,517kg)が前年比18.5%増、「初茶てん茶」(585,590kg)が前年比20.3%増となり、「玉露」(手摘み玉露 1,171kg、玉露 23,897kg)・「かぶせ茶」(23,216kg)・「煎茶」(66,488kg)は、碾茶への生産移行が進んだ影響からいずれの茶種も前年比2割程度の減少となっている。

また「刈直」(67,087kg)は、前年比 22.1%の減産(減産が始まる前の令和5年と比較すると半分以下)となっている。

なお、京都府の全農茶市場で取引される一番茶の本年産(2026年)は、碾茶のみが増産、他の茶種においては減産となっている。

(別紙資料:全農茶市場 年度別一番茶取引数量 図①参照)

(3) 茶価格について

全農茶市場での取引は、全茶種で高騰した。昨年大きく高騰した抹茶原料の平均単価は、「宇治てん茶」(52,275円)が前年比10.9%増、「初茶てん茶」(17,250円)が前年比21.9%増となっている。

また、てん茶以外の茶種の平均単価は、「玉露」(手摘み玉露 42,909 円、玉露 14,249 円)・「かぶせ茶」(8,369円)・「煎茶」(6,646円)は、前年から5割～8割上昇している。「刈直」(2,732 円)は、他茶種と比較しても価格上昇が大きく、前年比約123%増と高騰(減産が始まる前の令和5年と比較すると4倍以上)している。

(別紙資料:全農茶市場 年度別一番茶取引数量・平均単価 図②～⑧参照)

2. まとめ

昨年の一審茶取引は碾茶需要の急増と全茶種減産の影響から、従来経験したこともない茶価格の高騰となっておりますが、本年も価格高騰は、おさまりが見えず、引き続き非常に厳しい状況にあります。碾茶以外の減産は茶価格の高騰に大きく影響し、本年度産茶販売に大きな支障が出始めております。

昨年に商品値上げを行われた業者も多くありますが、令和 8 年度の状況をご理解頂きたく、お報せいたします。

別記

○ 茶種名について:

宇治てん茶	手摘みして製茶	かぶせ茶	はさみ摘みして製茶
初茶てん茶	はさみ摘みして製茶	煎茶	はさみ摘みして製茶
手摘み玉露	手摘みして製茶	刈直	煎茶等の刈直しを加工して、 ほうじ茶原料
玉露	はさみ摘みして製茶		

○ 別紙参考資料

全農茶市場 年度別一審茶取引数量 2026 年 7 月 31 日時点データ 図①

全農茶市場 年度別一審茶取引数量・平均単価 2026 年 7 月 31 日時点データ 図②～図⑧